

保護者と共につくる保育

—保育者と保護者との協働のあり方を探る—

○山崎久江（川村学園女子大学附属保育園） 菅井洋子（川村学園女子大学） 藤川志つ子（淑徳大学短期大学部）

1. 問題・目的

保育者と保護者との良好なパートナーシップが、子どもの発達に影響を与えることや、保育・教育施設と家庭とが連続性を保ち、質の高い保育をめざすことの重要性が報告されてきている^{1) 2)}。

現行の保育所保育指針の第1章総則には、「保育所は、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との綿密な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としている」³⁾と明記されており、子どもの健やかな成長を促す保育を進めるうえでは、保育士と保護者が密接に連携をとることの大切さが示されている。

これらのことを踏まえ、保育士と保護者の関係性が「支援する人」「支援される人」から「子どもと一緒に育てる」協働の関係性へと変容し、保護者が園への意識・関心を高め、保育士と共に子育てを喜び合い「共につくる保育」に取り組むことが重要であると考えた。

そこで本発表では、保護者が保育に参加する「一日保育士体験」を取り上げ、保護者の声から協働のあり方を探ることを目的とする。

2. 方法

開園16年目を迎える定員90人の中規模保育施設である当園では、以下のような取り組みを行い保護者との連携構築を図ってきている（表1）。

表1【保護者との連携づくりを意識した取り組み】

活動	内容
すくすく通信 (令和元年4月～)	3ヵ月に1回発行 子育てに役立つ情報提供(遊び方・遊び場・絵本・栄養・心理・育児方法等)
保護者アンケート (平成30年9月～)	行事ごとに実施し、意見や感想を集約し発信する
ポートフォリオ (令和2年4月～)	毎日の活動を写真入りで紹介 同じ場所に掲示し、保護者が全クラス分を自由に見られる環境づくり
保護者参加型の園だより (令和3年8月～)	保護者投稿スペースを用意し、保護者の思いや考えを共有(不定期企画実施)
保護者交流会 (令和2年6月～)	保護者のリフレッシュを目的に、保育士が和やかにお喋りし合える環境を設定する
一日保育士体験 (令和2年6月～)	一日我が子・異年齢クラスに入り保育士を体験する

*左端の矢印の色の濃さは保護者の参加度を示している

今回は、保護者が能動的姿勢で園の保育に関わる「一日保育士体験」(以下、「体験」と記す)活動に着目し、園生活を体験した保護者の声を、体験後に回収したアンケート記述をもとに分析し検討した。具体的な方法は以下の通りである。

1) 一日保育士体験の方法

毎年4月の保護者会で参加を募る案内チラシを配布し説明する(1日の受け入れ人数、手続き等)。

【令和3年度の体験実施期間】

令和3年5月～令和4年2月

【体験の目的】

- 1 保育園での我が子の様子を知る
- 2 同年齢や異年齢児の様子を知る
- 3 保育士の言葉かけや援助の仕方を育児の参考にする

【参加方法】 乳児(0・1・2歳児)の保護者は、基本的に8月までに1回(※新入園児及び、初めて育児をする保護者が多いことへの配慮)、幼児(3・4・5歳児)の保護者は、年度内実施期間に参加する。

【体験内容及びスケジュール】

① 体験当日

9:00 親子で登園

保護者は我が子以外のクラス(乳児は幼児クラス・幼児は乳児クラス)を体験

9:40 我が子のクラスに入る

保育士と一緒に保育に携わる

12:30 休憩

13:30 担任との個別面談

(子どもの姿/保育の振り返りを共有)

14:30 体験再開

16:00 親子で降園

② 体験終了後

終了時に配布したアンケート(感想)用紙を後日提出(提出は無記名・任意)

2) 分析方法

今年度(令和3年度)の体験終了後に提出された体験の感想に関する保護者の記述を分析対象とし、記述を意味内容でカテゴリーに分類し分析した。今年度の現時点(12月末)での体験参加率は、全世帯の約3割(32/90世帯、36%)であった。また、体験に参加した保護者の約9割が体験後のアンケートを提出しており(29/32人、91%)、本発表では現時点で回収された29人の保護者の声(120文)について検討し報告する。

アンケートで得られた記述内容120文を、共同研究者2名で保育士が共有していた3つの目的に準じて分析し、一致率を算出した。

3. 「一日保育士体験」に参加した保護者の声

1) 「体験の目的」に関する保護者の声

記述を分析した結果、園で保育士のみが共有していた「体験」の3つの目的（1 保育園でのわが子の様子を知る、2 同年齢や異年齢児の様子を知る、3 保育士の言葉かけや援助の仕方を育児の参考にする）に応じた記述が保護者によりなされていることが分かった（表2）。

表2 【体験の目的に一致した保護者の声】

体験の目的	保護者の声(一部抽出)
目的1	「普段の子どもの様子が見られてよかった。」 「我が子の様子に新たな発見があった。」 「子どもの成長を感じた。」
目的2	「周囲に気を配れる思いやりある子が沢山いた。」 「クラスの子の名前と顔が一致できて嬉しかった。」 「個々に楽しみ考え頑張っている姿可愛かった。」
目的3	「細かいことですが、朝の準備も改善できそう。」 「先生方の声かけや子どもたちへの対応の様子が 見られ、育児の参考にしたい。」 「給食を一緒に食べ、子どもに合った味付けや量、 食形態を知ることができ参考にしたい。」

※一致率92%

2) 保護者の多様な声から探る

体験の目的に関する保護者の記述だけではなく、「感謝や御礼」、「体験へ参加した保護者自身の感想」が述べられるとともに、体験へ参加することを通して「子どもの姿」や「保育士の関わりや仕事」について気づいたことや考えたこと、新たに発見したこと、さらには「今後の一日保育士体験の方法や提案」に関する多様な保護者の声記述から明らかになった。

次に具体的な保護者の声を取り上げ検討した結果を報告する。「感謝や御礼」では、「先生方」や「子どもたち」への感謝や御礼のみならず、体験中に保育士と保護者が実施した「面談」への御礼が述べられていた（例「面談でいろいろとお話させていただき少し気持ちも楽になりました。娘にあわせて考えながら成長を見守って下さる先生方にはとても感謝しています」）。このような保護者の声から、体験中の面談は、目の前の子どもの姿からともに考える機会となり保護者が保育士を信頼し関係を構築し、安心しながらともに子どもを育て、保育をつくっていく上で重要な役割を担っていることがうかがえる。

また、園全体で、保育士の連携のもとに体験に参加できる環境が保護者の安心にもつながっているようである（例「他の先生方にも声をかけていただき温かい環境で一日を過ごせて安心しています。いつも本当にありがとうございます」）。

「体験へ参加した保護者自身の感想」では、保育に参加し有意義な時間を過ごし楽しかったことや来年以降も参加したいことが述べられ、保護者自身の力になること（例「体力的には大変でしたが、明日からの仕事への活力が湧いてきました」、「安心して子どもを預けて働けることを改めて感じました」）や、保育園について子どもが語ることを実感し納得したこと（例「うちで保育園好き、先生やさしい」とよく言っていますがその理由がよくわかりました）、異年齢クラスの子どもの姿からわが子のこれからの姿を見通し子どもの育ちを楽しみにすること（例「あと1年であんなにも変化するのですね！ワクワクしました」）、保護者や子ど

もにとって安心できる大切な場所となること（例「これからは私たち夫婦、子どもにとって、安心できる大切な場所になると思いますのでよろしくお願いいたします」）が記されていた。

「子どもの姿」では、「保育園でのわが子の姿」のみならず、「同年齢や異年齢児の姿」について気づいたこと、考えたこと、発見したこと等が記されおり、家庭と園での相違や共通していることが述べられていた。また、保育参観とは異なる子どもの姿や多くの発見があったこともとりあげられていた（例「のぞきだけの保育参観と保育参加型をミックスしたような保育士体験で、より子どもの一日の姿が見られ、こんな子だったのねとたくさんの発見がありました」）。

「保育士の関わりや仕事」では、「保育士の仕事」を知り感じたことや感動したこと（例「先生方のチームワークに脱帽でした」、「あの忙しさの中で毎日子どもがケガもせず過ごせているのはすごいことだなとあらためて先生方の偉大さを実感しています」、「とても大変だと思いますが、とても素敵な仕事だなと思いました」）、「保育士の言葉かけや援助の仕方」を今後の子育てにいかしていきたいこと（例「家でも参考にしようと思ったのは、先生方の声のかけ方や見守る、助ける、のバランスのとり方です。なかなか意識しないとできないと思うので意識し、自分の育児を考えるきっかけにもなって本当によい時間となりました」）等が述べられていた。

「今後の一日保育士体験の方法や提案」では、体験時間等の方法や、父親の参加（例「園での活動や様子について夫にも知ってほしいので参加してもらいたいと思いました」）等の提案がなされ、保育士と保護者との協働につながるような記述（例「先生方からも要望があれば教えていただきたいと思いました」）もなされており、今後の保育をともにつくっていく保護者の姿がうかがいられましたとも考えられよう。

4. 考察と今後の課題

本研究の目的は、「一日保育士体験」活動を通し、保護者が、子どもが一日の大半を過ごす園への関心を高め、保育士と共に子どもの育ちを喜び合う「共につくる保育」への協働のあり方を探ることであった。一日保育士体験でのアンケート分析によって、保育現場では気づけなかった、多様な保護者の声明らかとなり、今後の保護者との連携を考えるうえで貴重な学びとなった。

今回明らかになった保護者の声を踏まえて、今後とも保育士と保護者がより良い関係性を保ち、保護者の多様な生活形態を考慮しながらも「子どものために」を合言葉に、保護者が園活動に楽しみながら積極的に参加できる機会の提供に努め、一緒に保育をつくる協働のあり方を模索していきたい。

引用文献

- 1) OECD 編 「OECD 保育の質向上白書」 明石書房 2019
 - 2) 衛藤真規 (2018) 保護者との関係に関する保育者の専門性の研究動向、東京大学大学院教育研究紀要 第58巻、2018
 - 3) 厚生労働省 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018
- 倫理的配慮 保護者に入園時、写真や記録が外部活用される場合があることへの説明及び同意を得ている。アンケートから得られた本データについても個人が特定されないよう処理することで了承が得られている。